

現代文芸コース 春季大学院進学説明会



「現代文芸コース」とは？



- 現代文芸コースは、博士後期課程をもたない修士課程のみからなる点を特色とする。
 - 現代の文芸の諸相を幅広い視野から学際的に横断的に学べるようなカリキュラムが用意され、文学を含む文化現象への多様なアプローチ方法にふれることができる。
- 例) 世界文学やジェンダー研究の視点から人間の文化的営みを総合的に考察することによって、現代の文化・文学の多層性をよりよく理解するための学問的方法や批評的思考を獲得することができる。
- 本コースの授業の対象は、小説、詩、批評、翻訳論、メディア論など多岐に及ぶ。各学生が、様々な学問的枠組みや方法を尊重しつつ、同時に自由に柔軟に、みずからの問題意識を深化発展させ、新たな時代に対応できる豊かでしなやかな知性と想像力を養うことを目指す。

現代文芸コース教員紹介 (1/2)



マヌエル・アスアハラモ先生

専門分野：比較文学と翻訳論、
世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、
日本文学の流通



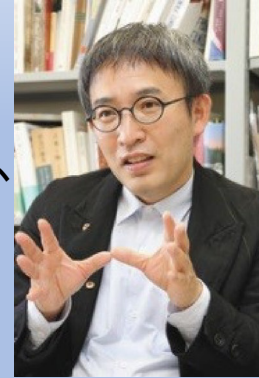
市川真人先生

専門分野：主として日本の20世紀以降の
文学と、その環境としての
紙メディアから電子媒体まで



岩川ありさ先生

専門分野：現代日本文学、
フェミニズム、
クィア批評、
トラウマ研究



小野正嗣先生

専門分野：現代フランス語圏文学、
世界文学論、文芸創作



菊池有希先生

専門分野：日本の近現代詩を中心とする
比較文学

現代文芸コース教員紹介 (2/2)



草野慶子先生

専門分野：20世紀ロシア文学、
比較文学



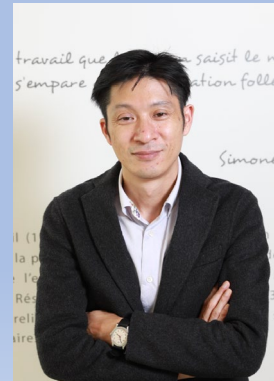
堀江敏幸先生

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）



小松史生子先生

専門分野：ポピュラー文芸論



橋本一径先生

専門分野：イメージ文化史



松永美穂先生

専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論



マヌエル・アスアヘアラム先生



専門分野：比較文学と翻訳論、世界文学論、
世界におけるラテンアメリカ文学、日本文学の流通

(2025年度春学期 現代文芸演習)

副題	20・21世紀の世界文学研究とポストコロニアル文学論
授業概要	この講義では、世界文学論(World Literature Studies)におけるポストコロニアリズムが課題として残っている現象について考えて行く。『オリエンタリズム』(1978)の著者エドワード・サイドが『イスラム報道——ニュースはいかにつくられるか』(1994)などで示したように、テレビやラジオなどといった現代のメディアを通して<世界>が表象されている以上、その<世界像>が、自国の文化空間で優越的な立場から君臨する様々な言説によって影響せざるを得なくなっているという。こうして、アメリカから見た中東だけではなく、例えばヨーロッパから見たアフリカや中国から見たアメリカなど、他国の文化を同化し得ない<他者>のものとする傾向があり、中立性をなくす危険が常に伴っている。 一方では、21世紀が明けてから文学研究において一層盛んに議論されている世界文学論は、グローバル時代における自国文学と他国文学の関係について横断かつ学際的に考える試みとして生まれてきたのである。しかし、2010年にAamir Muftiが発表した論考“Orientalism and the Institution of World Literatures”の中ですでに議論しているように、現在、世界文学について考えるためには、ポストコロニアリズムが残してくれた課題を忘れてはいけないう。したがって、この講義では、世界文学論を成立させた比較文学者のデヴィッド・ダムロシュ、パスカル・カザノヴァ、フランコ・モレッティなどが提案した世界文学論の基礎知識を得た上で、エドワード・サイドをはじめ、ガヤトリ・C・スピヴァク、ホミ・K・バーバ、アーミル・マフティの論考も取り入れる。 この講義では上述の枠組みを用いながら、植民者と被植民者という不平等な関係の中で生まれる世界文学作品について考える。授業の初めに、上記の理論的な枠組みを説明してから、毎回世界各地で書かれたポスト・コロニアル文学の作品を受講生と読み解いていきたい。
到達目標	受講者に文学作品をポストコロニアル的に読むノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からのポストコロニアル文学の魅力を感じると共に、今もなお世界で必要とされているトランスカルチャー的な理解とは何かを考える授業にしたい。

(2025年度秋学期 現代文芸演習)

副題	「グローバル・イングリッシュ」、翻訳研究、そして世界文学について考える
授業概要	本講義で近年の翻訳研究におけるグローバル・イングリッシュGlobal Englishの問題を受講生たちと考えていきたい。具体的に、Lawrence Venutiの『翻訳のスクランダル』<i>The Scandal of Translation</i>、水村美苗の『日本語が亡びる時:英語の世紀の中で』、Aamir Muftiの<i>Forget English!: Orientalisms and World Literatures</i>、Rebecca Walcottの『生まれつき翻訳:世界文学時代の現代小説』<i>Born Translated: The Contemporary Novel in an Age of World Literature</i>、そしてMichael Emmerichの<i>The Tale of Genji: Translation, Canonization, and World Literature</i>からの抜粋をゆっくりと精読し、批評的に考える。これらの著書にある文学理論を把握しながら、翻訳の諸問題を念頭に置きながら文学作品の解読も実践する。
到達目標	受講生たちに海外の文学作品を翻訳研究の視点から読み解くノウハウを養っていききたい。そして、世界各地からの文学を日本語や、その他の言語で読むにあたって、トランスカルチャー的な理解とは何かを考えるようになってほしい。

専門分野：主として日本の20世紀以降の文学と、その環境としての紙メディアから電子媒体まで

(2025年度春・秋学期 現代文芸演習)

授業概要	実践的な批評の執筆をめぐるプラクティスを行なう。テキストと批評の関係はもとより、批評の／としてのメディアや、その射程についてなど、複合的な要素を踏まえて書くこととは何かを実践に結びつけてゆく。 ※対面ハイフレックスで行いますが、最大で7回、moodleを利用したのオンラインでの授業を行います。
到達目標	・ 批評と研究の差異をふまえた、各自の目標とする進路にのっとったテキストの完成 ・ テキストを構造体としてとらえ、その要素であるブロックとレイヤーの構成を意識することで、より論理的な文章を書けるようになること。
事前・事後 学習の内容	学期冒頭に定める発表順に応じて、発表者は発表内容を事前に提出・共有し、発表者以外の者は、発表者がとりあげるテキスト等を読んでおくこと。
授業計画	毎回、発表者を決めて実際の（広義の）批評文を執筆し、輪読のうえ講評および討議を行なう。
成績評価	発表、執筆物、出席状況を複合して評価する。



岩川ありさ先生



専門分野：現代日本文学、フェミニズム、
クィア批評、トラウマ研究

(2025年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	フェミニズム批評、クィア批評
授業概要	この演習ではシモーヌ・ド・ボーヴォワール『決定版 第二の性 I 事実と神話』（『第二の性』を原文で読み直す会訳、河出文庫、2023年）を読みます。フェミニズム批評、クィア批評について学び、自分自身の研究と繋ぎます。また、アカデミック・スキルの基礎を身につけます。
到達目標	(1)テキストを正確に読むことができる。 (2)具体例を示しながら、ディスカッションを行うことができるようになる。 (3)アカデミック・スキルを身につけ、レポートを書くことができるようになる。
事前・事後 学習の内容	・担当者は、先行研究や関連文献を調べた上で、議論を喚起する形で発表できるように準備すること。 ・受講者は、テキストを正確に読み、自分が気になった点については調べ、問題意識を持ちながら議論に参加できるようにすること。
授業計画 (春)	第1回 イン트로ダクションー講義の概要と計画、受講者の自己紹介、フェミニズム批評について 第2回 アカデミック・スキルを身につけるー研究について ＊第3回までに担当箇所・担当回の決定 第3回 アカデミック・スキルを身につけるー同時代評、新聞、書評について、修士論文提出についてなど 第4回-第10回 『決定版 第二の性 I 事実と神話』（序文、第一部、第二部） 第11回-第14回 学生研究発表 ＊秋学期の現代文芸演習6-2と連動していますが、6-1のみの受講も可能です（6-2（秋学期）のみの受講も可能）。
授業計画 (秋)	第1回 イン트로ダクションー講義の概要と計画 第2回-第3回 修士論文・構想発表会 第4回-第9回 『決定版 第二の性 I 事実と神話』後半（第三部） 第10回-第12回 修士論文をブラッシュアップする 第13回 ゲスト（予定） 第14回 修士論文完成発表会



小野正嗣先生



専門分野：現代フランス語圏文学、世界文学論、
文芸創作

(2025年度春学期 現代文芸演習) ※2025年度秋学期は特別研究期間のため休講

副題	短篇小説を精読する
授業概要	# 基本的に対面授業です。 短篇小説を、毎回一作品、技術的な側面に注目して精読します。 基本的には翻訳を通じて読みますが、英語圏の作品の場合は英語で読む場合もあります。 毎回、担当者を決めて、その発表を受けて全員で議論します。 英語で読む場合、指定された部分の訳文を作ることが要求される場合があります。その場合は、訳文についても全員で議論します。
到達目標	1) 短篇小説がどのように構成されているのかを客観的に分析できる。 2) 理解した内容を、各自の問題意識につなげる。 3) 他の受講生の見解について建設的なフィードバックを行なう。
事前・事後学習の内容	指定された課題を必ず読んでください。 また、課題ではありませんが、日本や海外を問わず文学作品（とくに小説）を日頃から読むように心がけてください。 一般に、事前学習として予習に2時間程度、事後学習として振り返りに1時間程度必要です。
授業計画	優れた短篇小説とされている作品はたくさんあります。本演習では、12作品を選び、毎回、ひとつの作品を取り上げて、それがどのように書かれているのか、さまざまな技術的な側面（登場人物、会話、構造や表現など）に注目して丁寧に分析します。初回の授業ではイントロダクションとして授業の目的について説明します。 授業担当者が用意したリストの中から全員で12作品を選び、担当者を決めます。 2回目以降は、毎回、担当者による発表を受けて、全員でディスカッションを行ないます。 ただし、受講者の人数や習熟度に応じて、また公衆衛生上の要因によって、授業のスケジュールや内容が変更されることがあります。

菊池有希先生



専門分野：日本の近現代詩を中心とする比較文学

(2025年度春学期 現代文芸演習)

副題	〈純粹言語論〉から考える
授業概要	ドイツ文学者で詩人の瀬尾育生（1948～）の『純粹言語論』（2012）を精読する。本書は、「純粹言語論」「山村暮鳥と萩原朔太郎」「満州からハートランドへ 戦争詩論以後」「伝道者ディラン」「ハイデガー「言語」試訳と註」という、一見するとつながりの見えにくい五つの論考によって構成されているが、これらの論考はベンヤミンによって提起された〈純粹言語論〉に対する著者の受容・応答・変奏として捉えることのできるものである。本演習では、本書をガイドとしてベンヤミン及び瀬尾の〈純粹言語論〉についての理解を確認しながら、現代においてますます重要性を増しているように思われる〈存在の語り出し〉について考究する視座を確保することを目指す。 授業の方法としては、まずテキストの各章の内容を要約してきてもらい、全体で共有し理解を確かなものにする。そのうえでテキストのなかで触れられている詩人の作品などから各自任意に詩作品を選び、テキストで展開されている議論と関連づけながら自身の読みを展開してもらう。
到達目標	・ベンヤミン及び瀬尾の〈純粹言語論〉について理解を深める。 ・〈存在の語り出し〉について主体的に考えられるようになる。

(2025年度秋学期 現代文芸演習)

副題	宮沢賢治『春と修羅』を読む
授業概要	本演習では、宮沢賢治の詩集『春と修羅』（1924年）を精読する。賢治の生前唯一刊行された詩集である『春と修羅』は、妹の死に深く関わる彼岸のイメージや宇宙的感觉を東北方言や詩人固有の語法で表現した詩篇によって構成されているが、その独特な作品世界は、ゲーリー・スナイダーなど海外の文学者にも関心を持たれ、英語を始めとする諸外国語に部分的に翻訳されるなど、現代においても広く読まれている。本演習では、まず宮沢賢治の作品世界についてを見田宗介『宮沢賢治 存在の祭りの中へ』（岩波現代文庫）を読む中で全体的に把握し、その後、『春と修羅』の評釈本や先行研究、必要に応じて英訳なども参照しながら、『春と修羅』に収められている各詩篇について調査・考察したことを受講者に発表してもらう。そして全体討議を通して賢治の詩的世界について理解を深める。
到達目標	・評釈本、先行研究などを参照しながら、宮沢賢治の詩的世界について一定の理解を得る。 ・日本の近代詩を自分のことばで評釈し、読み解くことができるようになる。



草野慶子先生



専門分野：20世紀ロシア文学、比較文学

(2025年度春学期 現代文芸演習)

副題	動物／動物性と文芸研究1
授業概要	動物／動物性という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 動物と人間の境界はなにか。エクリチュールの動物性とはなにか。種差と性差の問題はどう交差するか。考えていきます。 具体的には、川端康成『禽獣』、大江健三郎『奇妙な仕事』、津島佑子の諸短編、松浦理英子『犬身』、ミハイル・ブルガーコフ『犬の心臓』、ピラール・キンタナ『雌犬』、グアダルーペ・ネットルの諸短編などの講読を予定しています。時間が許す限りで、それらに関する先行研究もあわせて読んでいくことになるはずです。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。

(2025年度秋学期 現代文芸演習)

副題	動物／動物性と文芸研究2
授業概要	春学期の「動物／動物性と文芸研究 1」に引き続き、動物／動物性という観点から、どのような文芸研究の実践が可能か、またそうした実践が人文学研究になにをもたらすかを考えます。 動物と人間の境界はなにか。エクリチュールの動物性とはなにか。種差と性差の問題はどう交差するか。考えていきます。 具体的には、津島佑子の長編『笑いオオカミ』、多和田葉子『犬婿入り』『雪の練習生』、ディーノ・ブッツァーティの諸短編、J.M. クッツェー『動物のいのち』などの講読を予定しています。時間が許す限りで、それらに関する先行研究もあわせて読んでいくことになるはずです。 それに加えて秋学期では、文学作品の他にもアニメーションや漫画作品を取り上げ、動物／動物性という観点から論じてみたいと考えています。
到達目標	上記「授業概要」に記した内容について一定の理解と知見を持つこと。



小松史生子先生



専門分野：ポピュラー文芸論

(2025年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	吸血鬼文学を読む
授業概要 (春)	本演習は、現代小説に登場するモンスター表象をめぐる言説を理論的に分析し、モンスターに向ける大衆の深い関心と、テクストの背景にある歴史・時代・世相を、「モンスター言説の潮流」という観点から読み解く。 今年度は、メディアミックスやアダプテーションで現代もなお高い人気を誇る吸血鬼を取り上げる。肉体/精神、生/死、光(昼)/闇(夜)、老/若、文明/野蛮、といった様々な二項対立で構成された吸血鬼モチーフは、大衆が好む勧善懲悪の倫理言説とも合致するが、一方でそこから逸脱する大衆の秘められた関心をも教示している。「大衆文学・文化とは何か?」「大衆文学・文化の研究手法」を考え学ぶ対象としてふさわしい。 春学期は、恩田陸『愚かな薔薇』上巻をじっくり読み込み、現代コンテンツに継承されている吸血鬼言説史の動態を見出す。また、吸血鬼表象のアダプテーション作品(映画、ドラマ、漫画、アニメ)との比較検証を行う。
授業概要 (秋)	本演習は、古今東西の大衆小説・文化作品に登場するモンスター表象をめぐる言説を理論的に分析し、モンスターに向ける大衆の深い関心と、テクストの背景にある歴史・時代・世相を、「モンスター言説の潮流」という観点から読み解く。 秋学期は、恩田陸『愚かな薔薇』下巻をじっくり読み、現代コンテンツに継承されている言説の動態を見出す。また、吸血鬼表象のアダプテーション作品(映画、ドラマ、漫画、アニメ)との比較検証を行う。
到達目標	①文学作品が言説コードによって成立していることを深く理解し、その言説コードの形成には、その当時の社会構造・認識概念が関わっていることを具体的に説明できるようになる。 ②〈恐怖〉という切り口を通して、同時代の様々な社会現象を人々がどのように咀嚼し、物語構造に投影して享受しているかを洞察できるようになり、各方面の言説場におけるリテラシーを養うことができる。
事前・事後 学習の内容	・自分の担当作品のみならず、他の受講者の発表作品も事前に読み込んでおく必要がある。 ・精読と同時に、速読の技術も習得する。 ・古今東西の文学作品や文献、様々な学問領域についての知識が必要になるので、読書の時間を確保する必要がある。



松永美穂先生



専門分野：現代ドイツ文学・翻訳論

(2025年度春学期 現代文芸演習)

副題	複数言語による執筆とエクソフォニー
授業概要	この授業では、世界のなかで複数言語による執筆を行っている作家に注目し、彼らの作品に触れる。多和田葉子の『エクソフォニー』などをもとに非母語で執筆する行為について考察するほか、作家の自己翻訳についても考える。
到達目標	複数言語による執筆や作家の自己翻訳について、どのような事例があるかを知り、それぞれの文学的特徴を考察する。
事前・事後学習の内容	発表の準備はもちろん、共通テキストを読む必要もあるので、ある程度の予習が求められる。

(2025年度秋学期 現代文芸演習)

副題	「詩」と「詩論」 多和田葉子を中心に
授業概要	「詩」というジャンルでの表現をめぐって、現代ではさまざまな実験的創作が行われている。この授業では多和田葉子の初期から現在に至る詩を読みつつ、シュールレアリズムとの関係や、ドイツ語を使った言葉遊び、ツェランやエルンスト・ヤンドルなどの影響を見ていくと同時に、言葉はいつ「詩」になるのかという大きな問題についても考える。
到達目標	「詩」を意識しつつさまざまなテキストを読み、「詩」を成り立たせるものについて考える。
事前・事後学習の内容	関連記事や参考図書、担当する作家の作品の読み込み、さまざまな下調べなど。

専門分野：創作（小説・批評・エッセイ）

（2024年度春学期 現代文芸演習） ※2025年度は特別研究期間のため休講

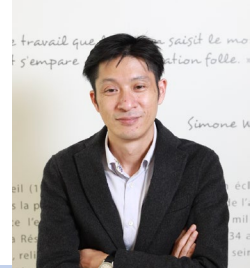
副題	島崎藤村の短篇を読む
授業概要	島崎藤村は詩から散文へと移行するなかで多くの短篇を残した。同時期に刊行された感想集や書簡等を適宜参照しながら、短篇という形式において藤村が試みたことがらを読み解く。
到達目標	藤村の短編の題材、形式の多用性と、にもかかわらず護持されているひとつの《声》を聴き取り、長編小説読解の準備とする。
事前・事後学習の内容	作品ごとに、履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた発表を行う。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提とするため、十分な準備が求められます。

（2024年度秋学期 現代文芸演習） ※2025年度は特別研究期間のため休講

副題	アルベール・カミュ『ペスト』を読む。
授業概要	春学期に扱った島崎藤村の短篇「子に送る手紙」には関東大震災で被災した作家の眼差しが生きていた。地震や疫病といった人智の及ばぬ災厄を、言葉はどのように処するのか、もしくは災厄の前でどのように処されていくのか。そのありようを1940年代、アルジェリアのオランで流行したペストを題材にしたカミュの小説のなかに探る。
到達目標	災禍にあっても延命する言葉とはいかなるものかについて考察を深めることができる。
事前・事後学習の内容	履修者の専門領域、研究主題、興味関心に応じた基調報告・発表を行う。担当回のレジュメ作成と履修者への事前共有を前提とするため、十分な準備が求められる。



橋本一径先生



専門分野：イメージ文化史

(2025年度春・秋学期 現代文芸演習)

副題	イメージ文化史
授業概要 (春)	【「ゴミ」のイメージの思想史的研究1・2】 海洋に蓄積され続けるプラスチック、あるいは核廃棄物の処理など、「ゴミ」をめぐる諸問題は地球の存続を脅かしつつある。だがそもそも「ゴミ」とは何なのか？ 「廃棄」が所有権の放棄を意味するとすれば、「ゴミ」とはひとまず、誰にも所有されていない「モノ」とであると定義できるだろう。ここで明らかになるのが、「ゴミ」と「身体」の類似性である。「身体」もまた、誰にも所有されない「モノ」だからである（さもないと、たとえば臓器の売買を禁止することができない）。実際のところ身体は日々ゴミを生産し続けるだけでなく、死後は自らも「ゴミ」と化す。そして生と死の厳密な区別が困難であるように、「ゴミ」と「身体」の厳密な線引きも難しい。本演習は、「身体」を手掛かりとすることで、近代における私たちとゴミとの関係の変化を跡付ける。
到達目標	「ごみ」の問題が持つ思想史的な広がりを理解し、自らの研究の発展に結びつける。日本語や外国語の文献の探索と読解の技術を身につける。
事前・事後学習の内容	指定された文献にあらかじめ目を通しておく。授業内容と関連する文献を見つけて、授業中に読む文献の候補として提案する。
授業計画	以下のテーマごとに、それぞれ関連する文献の読解や教員による問題提起、履修者による発表などを、数回に分けて行う。取り上げるテーマの内容や順番は変更することがある。 ・欧米における「ゴミ学 (rudologie)」の展開 ・衣服と身体：古着からファストファッションまで ・フランスにおける「ゴミ箱 (poubelle)」の発明 ・プラスチックの発明と変容するリサイクル ・捨てられないモノ：写真・衣服・人形

過去の入試問題

早稲田大学入学センターの以下のサイトで過去3年分の問題の閲覧が可能です。

https://www.waseda.jp/inst/admission/graduate/past_test/

(大学院入試情報→過去の入試問題→該当年度の文学研究科 修士課程)

The screenshot shows the Waseda University Admissions Center website. The header includes the university logo, "Admissions Center 早稲田大学 入学センター", and navigation links like "MyWaseda.jp", "お問い合わせ", "サイトマップ", "寄付", "アクセス", "データ集", "検索", and "Language". A "Quick Link" dropdown is on the left. The main content area has a green background with a navigation bar containing "ニュース News", "イベント Events", "学部入試情報 For Undergraduates", "大学院入試情報 For Graduates", and "その他の入試情報". The "大学院入試情報 For Graduates" menu is open, showing a list of links: "過去の入試問題", "入試要項・願書", "入学案内・パンフレット", "入学金・学費・諸会費", "奨学金", "大学院合同説明会", "Waseda Course Channel", and "Q&A". The "過去の入試問題" link is circled in orange. To its right, a blue box with the text "入学試験情報" has an orange arrow pointing to the circled link. Below the navigation bar, the breadcrumb path "ホーム > 大学院入試情報 > 過去の入試問題" is visible. The main heading "For Graduates" is followed by "大学院入試情報". At the bottom, there is a "過去の入試問題" button and a large "Past Test" text.

よくあるご質問（1/2）



◇冬期入試はおこなわれないのですか。

〔答〕 9月入試のみの予定です。

◇これまで横断的研究に馴染みがないのですが、外部から入学した場合、大学院の授業に適応できるでしょうか。

〔答〕 指導する側として出身校による違いは感じられません。副指導教員制度もあるため、馴染みやすいのではないのでしょうか。外部から入学した学生数は少なくありません。学生さん同士が情報交換しながら、問題なく授業についていけると思います。また、留学生や外部からの進学者のみなさんが豊かな学術環境を作ってくださっていると感じています。

◇現代文芸コースに進学するにあたり、参考となる教科書をいくつか教えてほしいのですが。

〔答〕 教科書として特に共通したものではありませんが、強いて言えば、理論書を読むより、文学史を読みつつ、古典とされる文学作品に広く親しんでほしいと思います。また修士の授業についてお知りになりたい場合は、HPの教員紹介の頁に各教員が担当する科目のシラバスが公開されていますので、そちらを参考になさってください。

よくあるご質問（2/2）

◇入学後、修士論文の研究テーマが変わっても大丈夫ですか。

〔答〕 問題はないです。むしろ、入学後に学び、新たな分野に触れることで、軸はぶれなくても、研究内容が変化する事のほうが多いと思います。

◇院生の進路についてはどのような選択肢がありますか。

〔答〕 卒業生の進路には、高校の教員（国語）、地方公務員、国際交流基金、出版社、ゲーム会社、翻訳エージェント、大学職員、他大学院（博士後期課程）、NHKなどがあります。

◇大学院を事前に訪問することはできないですか。

〔答〕 入試前に先生に直接会いに来ることは、入試の公正性という観点から避けてほしいのですが、雰囲気を感じるために助手や講師が在室する現代文芸コース室を訪問することは可能です。

場所：早稲田大学 戸山キャンパス 33号館 7階 704号室

開室時間：月～金 12:00～18:00

（※助手は16:00で退勤し、その後は

論系・コース室LAのみが在室します。）

E-Mail：bungeijournalism3238@gmail.com



ご静聴ありがとうございました！

